

北海道高等学校長協会家庭部会調査研究委員会報告

「北海道の家庭科教員の抱える現状と課題」

北海道高等学校長協会家庭部会調査研究委員長

北海道苫前商業高等学校 校長 佐藤 恵 一

1 調査の趣旨と対象

本調査は、家庭科教育に係る現状の課題とその対応等を整理し、各科目等の目標や内容に照らした生徒の学習の実現状況について調査研究を行い、データ等を得るために実施した。

道立（市町村立を含む）と私立の高等学校及び中等教育学校の家庭科を担当する教員並びに生徒を調査対象とした。教員からは121校150名、生徒からは98校9071名の回答が寄せられた。

2 相関分析の結果

設問ごとに、R version 4.3.1 を用いて、ピアソンの積率相関係数を算出し、5.00以上を正の相関ありとして分析した。生徒対象の調査結果では相関が見られなかった。ここでは教員対象の調査結果で正の相関がみられた分析を紹介する。

設問9. 調理等の実習や実験で、繰り返し行わせて知識や技術の定着を図る活動を取り入れた授業を行っていますか。

設問11. 実習や実験、観察などの結果を整理したり、考察したりする学習活動を行っていますか。

設問12. ホームプロジェクト活動など問題解決的な学習を取り入れた授業を行っていますか。

設問9と設問11、設問11と設問12に正の相関が見られた。このことから、実習や実験を行う場合や問題解決的な学習を取り入れた授業の場合には、結果の整理や考察の学習活動が取り入れられていることがわかる。これは学習指導要

領の家庭科の目標に示されている“(2) 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して生活の課題を解決する力を養う。”を意識した指導がされていると考えられる。

設問20. 仕事と家庭の両立や、男女の協力などの男女共同参画への理解を深める授業や指導の工夫をしていますか。

設問22. 今日的な諸課題（食品の安全性、環境、消費者問題、少子高齢化、SDGsなど）について、生徒の理解を深めたり、実践を促すための工夫をしていますか。

男女共同参画への理解を深める授業や指導の工夫をしている場合には、今日的な諸課題についても同様の指導をしている傾向がある。これは、男女共同参画が今日的な諸課題に含まれていることを示唆していると考えられる。

設問23. 今年度、調理実習を行うことができましたか。（予定含む）

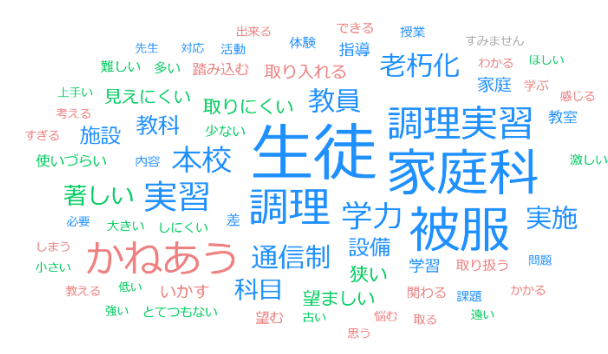
設問24. 今年度、被服実習を行うことができましたか。（予定含む）

調理・被服実習の一方のみの実習を実施している教員は少なく、両方実施しているか、そもそも実習をしていないかという傾向がある。このことから、実習を行うかどうかについて、被服実習か調理実習かの差は小さく、実習をするかしないかという教員の意識や学校設備が整っ

ているかが、重要な要素になっていると考えられる。

3 家庭科教員の抱える課題

家庭科を教えるにあたって、現在の学校での課題を記述式で回答してもらった。そのデータに対して、ワードクラウドを使用し、テキストマイニングにより分析スコアが高い単語を複数選び出し、その値に応じた大きさに図示した。単語の色は品詞の種類で異なり、青色が名詞、赤色が動詞、緑色が形容詞、灰色が感動詞を表している。



以下は分析結果と回答を基にした考察である。

(1) 学力差

生徒間の学力、技能、経験の差が大きく、これが一部の生徒へのサポート不足につながっている。特に、基本的な調理や被服技術についての事前知識が不足している生徒が多く、これは義務教育段階での指導不足や家庭環境の影響を示している可能性がある。

(2) 施設と設備

多くの学校で家庭科教室や調理室の老朽化、施設や設備が不十分または壊れているという問題がある。これは、学校の予算や資源の不足が影響していると考えられる。

(3) 予算と資源

市立高校は道立高校に比べて予算や環境整備で後れを取っており、これが生徒と教員のパフォーマンスに影響を与えている可能性が高い。特に、1人1台端末の利用が遅れていることは、

ICTの活用やオンライン学習の進行に大きな影響を与えていると考えられる。

(4) 教員の負担

家庭科の専門教員が不足しており、そのため教員は多忙な日々を送っている。さらに、家庭科に対する偏見や認識の不足、ICT活用のための研修時間の不足、評価方法の悩み、生徒の家庭環境の配慮など、様々な問題に対応する必要があることが、教員のストレスを増加させ、教育の質に影響を与える可能性がある。

(5) 家庭環境

生徒の家庭環境が複雑であり、これが特別な配慮やサポートの必要性を生む要因となっている。また、家庭での基本的な知識や技能の不足が、学校での学習に影響を与える可能性がある。

(6) 教育内容の見直し

生徒のニーズや社会の変化に対応した教育内容の見直しは、進学校における家庭科の位置づけや動機づけ、知的好奇心を刺激しながら社会とのつながりを意識させることにつながる重要な要素と考えられる。

総合的に考えると、これらの問題は相互に関連しており、一つの問題の解決が他の問題の解決にも寄与する。たとえば、予算と資源の問題が解決されれば、施設と設備の問題や教員の負担も軽減される可能性がある。

またこれらの問題は家庭科に限った話ではなく、学校教育全体の課題であると捉えられる。各問題に対して家庭科としてできることを実践しつつも、学校教育全体として総合的なアプローチを取ることが、最も効果的な解決策となりえるだろう。

※右のQRコードから調査結果の詳細を確認できます。

